

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成22年5月号

編 集 武田 隆久
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3
社団法人 日本病院会 通信教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.jha-e.com/>
受付時間 9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月1日
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

パラダイムシフトに対応できる診療情報管理士に

阿南 誠

国立病院機構九州医療センター 医療情報管理部
医療情報管理室 室長
福岡会場 専門課程(医療管理各論Ⅱ) 講師

本稿執筆時点では、送別会や新たな職員を迎えるための準備、環境変化等で職場も世間も忙しい。世界情勢に目を転じてみると、ここ数年の世界的な恐慌、地域紛争、環境保護問題、等を報道で目にしない日はない。我々が生業とする医療の世界でも診療報酬改訂、それ以前に政権交代の影響等、これからどんな変化があるのかさえ予想だにできない状況にあって、何かと落ち着かない。同時に、環境保護問題を筆頭に最近あまり聞かれなくなったが、「パラダイムシフト」を強く意識させられることも多い。医療の世界でも、過去に大きなパラダイムシフトは何度もあったのではないかと思うが、パラダイムシフトの意味は、例えば、「paradigm shiftとは科学者集団に共有されているparadigmが、ある時点で革命的・非連続的に変化する局面のこと(三省堂大辞林第二版)」とされている。paradigm、私個人は、後述するように、世紀末を迎えた頃に頻繁に耳にするようになったと記憶している。分かり難いかもしれないが、つまり、常識だと考えられていた思想や価値観が劇的に変化することであろうか。

我が国は敗戦から驚くべき復興、急激な経済発展が現在の日本の(行き過ぎた?)資本主義社会を作ってきたことに異論はないところであろう。その一方、明らかに価値観の変化を生んだ、これもパラダイムシフトといえるかもしれない。

さて、医療の世界はどうであろうか。世紀末を迎えた2000年頃、正にカルテ開示元年とも言われる時期を経験し、続いて、いわゆる個人情報保護法の施行によって、患者の権利、患者のものとしての診療情報の概念が確立した。これらの出来事に合わせて我々診療情報管理士の業務も段階を追って劇的に変化している。また、1998年の日本版DRG、その後のDPC導入と諸外国に遅れて診断群分類の導入という経験もし、さらに、がん登録の推進と、診療情報管理士にとっては、まさにパラダイムシフトの最中、連続ではないだろうか。そして、激動する医療環境の中、今、反省、自覚と共に、更なるパラダイムシフトが求められていると感じている。未来の診療情報管理士にはどんな時代にも追随しリーダーシップを発揮できる存在になって欲しい、私自身もそうありたいと願っている。